

第36回

うつのみやこども賞だより

令和元年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『羊の告解』

いとうみく／著（静山社）



令和2年3月1日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library

～読んだ本の感想より～

- 主人公の気持ちがすごく伝わってきた。お父さんに最後まで会えないのは、「あれっ？」って思ったけれど、とても良かったです。
- すごくすごく面白かった。ある日から加害者家族になった主人公の気持ちが細かく表されていてとても面白く、ぐんぐん入っていくことができた。
- 初めてこのような本を読んで、とても心に残った。家族に罪を犯してしまった人がいる人たちの苦しみを知ることができたのでよかった。
- 個人の尊重の大切さを学んだし、とてもリアルに日常生活をかいていた。人生の全てがハッピーエンドとはいかないけれど、がんばろうという勇気ももらった。
- お父さんがつかまったら自分はどうなるだろう。どうするだろうということを考えながら読んでいて、私はこの本の主人公のようにすぐには理解できずにいるだろうなと思いました。

『今、空に翼広げて』

山本悦子／著（講談社）

- 厚い本で「読めるかな」と少し思ったけれど、どんどん築かれていく友情に感動して、すぐ読み終わった。大切なことに、たくさん気づかせてくれる本！！
- 個性豊かなキャラクターがたくさん出てきてよかった。つばさとかもかわいしいし、つばさママが恐ろしかったのもよかった。
- 主人公たちそれぞれが自分をしぼりつけている言葉があって、つばさのおおばあちゃんをきっかけに変わっていくところがよかったです。
- 1人の人物をめぐって、1人1人の気持ちが目線、なやみが変わったり、ふえたりへったりして、心の変化があるところがとてもおもしろかったです。
- 圭太はちょっと思ったこと言いすぎだったと思うけど、少しは考えて言うようになってよかったと思った。言葉ってすごいと思った。

『となりのアブダラくん』

黒川裕子／著（講談社）

- 私もいろいろあんでいて、たしかにハルの気持ちが分かるなと思った。
- 私も転校生が来て、外国のことがあまり分からず困ったことがあるので、主人公の気持ちがよく分かりました。この本を読んで、ほかの国のことも知って、お互いの国を理解し協力することを学べました。世界では差別があるところもあるので、こういうのは大切だと思いました。
- 主人公の男の子が転校生に何かを教えていくだけでなく、主人公の方も転校生から何かを教わるというのが良いと思いました。また、主人公がヒミツをかかえているという設定も良かった！
- 「宗教について、いろいろな人の目せんから深く考えてみる」ということが大切だという作者さんのきもちがよく伝わってきました。
- 学校で習った事よりもくわしくイスラム教のことを知ることができ、学ぶことが多い本だなと思った。

『コロッケ堂のひみつ』

西村友里／著（国土社）

- コロッケ堂でまさか、ゆうれい！？とか思ったけれど、実はアイドルの子っていう展開がなかなかいいなあとと思いました。
- ストーカーが本当に自分を殺そうとする話がおもしろいと思った。
- 謎の女の子が急に現れて、その女の子がなんとアイドルだった！！という構成や主人公の気持ちが分かる日記はすごく良いと思いました。
- かみの白い女の子の事件を主人公がいろいろ考えている気持ちがこまかくのっているから、主人公の気持ちになって本の中に入っているみたいに読めて楽しかった。